

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		車両管理事業			事業番号	担当課	総務市民課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
					6	担当G	地域振興グループ					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標)	(目標)	(目標)	
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	7	＜行財政＞市民とともに歩む「ムダ」のない経営			予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	車検台数	台	7	7	7	7		
（個別目標）			1	効率的で質の高い行政経営が推進されるまち				1	2	1	1					7	9	5			
（施策）			2	行政組織の効率化			主な費目	需用費、役務費、使用料及び賃借料、公課費					イ	修繕件数	件	20	20	20	20		
（基本目標）						対象		公用車、職員								成果指標（成果・効果）		(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標)
（施策）							事業期間	昭和44年度～ 年度（ 年間）					ア	公用車台数	台	12	12	10	10		
						イ		公用車利用回数	回	2,200	2,200	2,200				2,200					
											1,679	1,535	1,106								
(1) 総事業費の推移				単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (計画・予算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4) 評価		所管課による評価								
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円							有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・公用車を利用する職員が安全快適に運転できた。 ・公用車を集中管理することにより維持管理ができた。 ・公用車の故障等による業務停滞を防ぎ効率的に運営ができた。 ・車は定期的なメンテナンスが必要であり、怠ることにより公用車の安全走行の支障となる。 ・公用車の配置してある支所で対応した方が効率的である。 ・公用車管理規則に基づき、公平・公正に利用している。								
			その他特定財源	千円																	
			一般財源	千円	2,483	3,579	2,943	3,423	3,423												
			事業費計 (A)	千円	2,483	3,579	2,943	3,423	3,423	0											
			所要人員 (年間)	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100												
			人件費概算 (B)	千円	560	560	560	560	560	0											
(A) + (B)				千円	3,043	4,139	3,503	3,983	3,983	0											
(2) 事業概要											効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	・毎日の運転日誌の確認や例月点検により、公用車の維持管理ができた。								
事業目的	公用車を集中管理することにより管理が行き届き、利用する職員が公用車を安全快適に運転できる。																				
事業内容	集中管理している公用車を利用する職員が常時快適に利用できるように維持管理（車検・修理等）する。																				
必要性	開始経緯	昭和44年庁舎建築の開始と同時に車両管理事業も開始された。また、市町村合併により支所の公用車の台数は減となったが、インフラの整備により公用車の予約や使用状況を各課端末から確認できるようになり公用車管理事務の効率化が図られている。									達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	・公用車を利用する職員が安全快適に運転できた。 ・公用車の故障等による業務停滞を防ぎ効率的に運営ができた。 ・毎日の運転日誌の確認や例月点検により、公用車の集中管理により維持管理ができた。 ・インフラの整備により公用車の予約や利用状況を各課端末から確認ができるようになり公用車管理事務の効率化が図られた。								
実施状況	（１）公用車の燃料や維持管理費の支払業務（２）交通事故や修繕等の不具合発生時の対応（３）車両損害共済の更新手続き（４）公用車の車検（５）公用車の運転日誌の確認（６）公用車の例月点検（７）公用車の更新及び廃車																				
成果	毎日の運転日誌の確認や例月点検により公用車の状態を管理し、公用車の車検や修繕等、適切な管理を行い利用する職員が公用車を安全快適に運転することができた。										改革改善案		拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
課題	車検等には経費を伴うが日頃からの点検により突出した経費等がないように注意する必要がある。また、公用車の老朽化による更新を計画的に行う必要がある。											車検等には経費を伴うが日頃からの点検により突出した経費等がないように注意する必要がある。 また、公用車の老朽化による更新を計画的に行う必要がある。									

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		庁舎管理事業			事業番号	担当課	総務市民課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度					
					22	担当G	地域振興係					活動指標（実施状況）	単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)					
まちづくりプラン （基本目標）		振興計画体系	7	<行財政>市民とともに歩む「ムダ」のない経営		予算科目	会計	款	項	目	備考	ア	修繕及び委託件数	件	20	20	20	20						
（個別目標）			1				効率的で質の高い行政経営が推進されるまち	主な費目	1	2	1				3		17	13	19					
（施策）			2	行政組織の効率化		対象	市民、職員					イ	清掃回数	回	150	150	150	150						
（基本目標）		総合戦略				事業期間	44年度～ 年度（ 年間）					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)				
（施策）																								
(1) 総事業費の推移		単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4) 評価						所管課による評価			
年間 トータル コスト	事業費	財源内訳	千円													有効性 評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・庁舎利用者が庁舎を安全に快適に利用できた。 ・庁舎管理規則、行政財産使用条例に基づき公平・公正に利用している。						
		国県支出金	千円																					
		その他特定財源	千円																					
	一般財源	千円	6,900		11,718		33,974		8,946		8,946													
	事業費計（A）	千円	6,900		11,718		33,974		8,946		8,946		0											
	所要人員（年間）	人	0.200		0.200		0.200		0.200		0.200													
	人件費概算（B）	千円	1,120		1,120		1,120		1,120		1,120		0											
(A) + (B)		千円	8,020		12,838		35,094		10,066		10,066		0											
(2) 事業概要															効率性 評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	庁舎の維持管理及び各設備の保守点検業務委託並びに庁舎清掃業務委託が主な事業費であり削減余地はない。							
事業目的	庁舎利用者が庁舎を安全に快適に利用できる。																							
事業内容	(1) 庁舎設備の維持管理 (2) 各設備の保守点検業務委託及び庁舎清掃業務委託 (3) 庁舎の利用者が常時快適に利用できるように整理整頓する。																							
開始経緯	昭和44年庁舎建築により開始された。																							
実施状況	(1) 庁舎の光熱水費や維持管理の支払業務 (2) 修繕等不具合発生時の対応 (3) 業務委託契約の締結 (4) 建物損害共済の更新手続き (5) 庁舎備品の購入及び廃棄 (6) 庁舎の清掃及び整理整頓 (7) 行政財産貸付 (8) 修繕に伴う事務処理等													達成度 評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間		庁舎設備の維持管理や保守点検業務委託及び庁舎清掃業務委託、庁舎内外の整理整頓を行い庁舎利用者が庁舎を安全に快適に利用できた。							
成果	庁舎設備の維持管理や保守点検業務委託及び庁舎清掃業務委託、庁舎内外の整理整頓を行い庁舎利用者が庁舎を安全に快適に利用できた。																							
課題	庁舎及び庁舎設備等が老朽化し、修繕が増加傾向にある。																							
															改革 改善案	拡充	○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
																庁舎及び庁舎設備等の長寿命化を図るため、年間における点検等を徹底する。								

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名			観光施設管理事業			事業番号	担当課	総務市民課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度		
						342	担当G	地域振興係					活動指標（実施状況）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	
								会計	款	項	目	備考				(実績)	(実績)	(実績)				
まちづくりプラン（基本目標）			振興計画体系	2	<生活環境>自然や風土と共生する安心で豊かなまち			予算科目	1	7	1	3		ア	修繕及び委託件数	件	3	3	3	3		
(個別目標)			振興計画体系	1	憩いにあふれ住みたくなるまち			主な費目						イ	清掃回数	回	72	72	72	72		
(施策)			振興計画体系	4	公園・緑地の整備			対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)	(目標)
(基本目標)			総合戦略	4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる									ア		苦情件数	件	0	0	0	0	
(施策)			総合戦略	1	快適な生活支援プロジェクト			事業期間	H7 年度～ 年度（ 年間）					イ								
(1)総事業費の推移			単位	5年度 (実績・決算)		6年度 (実績・決算)		7年度 (実績・決算)		8年度 (計画・予算)		9年度 (計画・予算)		10年度 (計画・予算)		(4)評価		所管課による評価				
年間トータルコスト	事業費 人件費	財源内訳	国県支出金	千円									有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務を行ったことにより、観光施設利用者が施設を快適に利用できた。							
			その他特定財源	千円																		
			一般財源	千円	2,951	2,349	2,824	1,171	1,171													
			事業費計 (A)	千円	2,951	2,349	2,824	1,171	1,171	0												
			所要人員 (年間)	人	0.050	0.050	0.050	0.050	0.050													
			人件費概算 (B)	千円	280	280	280	280	280	0												
			(A) + (B)	千円	3,231	2,629	3,104	1,451	1,451	0												
(2)事業概要															効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	観光施設利用者に求める利用料金もなく、公平・公正な利用が可能となっている。					
事業目的	観光施設利用者が施設を快適に利用できる。																					
事業内容	松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務。																					
開始経緯	旧松山町で城山総合公園内の松山城址展望台は昭和61年度から62年度、大谷山自然公園は平成7年度に設置され開始された。その後、市町村合併により新市に引き継がれた。																					
実施状況	(1) 観光施設の光熱水費や維持管理費の支払業務 (2) 修繕等不具合発生時の対応 (3) 業務委託契約の締結 (4) 施設損害共済更新手続き (5) 日本庭園陥没復旧作業等																					
成果	松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務をすることにより観光施設利用者が施設を快適に利用できた。																					
課題	適切に維持管理されているが、多少施設の老朽化が進んでいる。												改革改善案	引き続き観光施設利用者が施設を快適に利用できるよう、松山支所管内にある観光施設の維持管理及び清掃業務に努める。								

作成日 令和 8 年 7 月 1 日作成

事務事業名		地域活性化事業（秋の陣まつり事業補助金）		事業番号	担当課	総務市民課					(3)指標の推移		5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度				
				342	担当G	地域振興係					活動指標（実施状況）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)			
まちづくりプラン（基本目標）		振興計画体系	3	<産業経済>大地の力と海の恵みを生かした魅力あふれるにぎわいのまち		予算科目	1	7	1	3		ア	定例企画会回数	回	16 16	16 16	16 16	16 16				
(個別目標)			4				地域資源を生かした観光のまち		主な費目	負担金補助及び交付金					イ	定例企画会参加人数	人	200 160	200 160	200 160	200 200	
(施策)			1	観光資源の整備、活用		対象	市民					成果指標（成果・効果）		単位	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)	(目標) (実績)		
(基本目標)			4	魅力的で、安心して暮らせるまちをつくる								ア	入場者数	人	50,000 25,000	50,000 20,000	50,000 20,000	20,000 20,000				
(施策)			5	観光パワーアッププロジェクト		事業期間	H1 年度～ 年度（ 年間）					イ	スタッフ数	人	350 200	350 200	350 200	350 200				
(1)総事業費の推移				単位	5年度 (実績・決算)	6年度 (実績・決算)	7年度 (実績・決算)	8年度 (実績・決算)	9年度 (計画・予算)	10年度 (計画・予算)	(4)評価		所管課による評価									
年間トータルコスト	事業費	財源内訳	千円								有効性評価	・市民のニーズ ・事業の効果 ・政策との整合性 ・事業を廃止の影響 ・類似事業との連携 ・公平性	・平成元年度から続くイベントであり、県内でも多くの方に認知されている。 ・秋の陣まつりは、地域おこし団体による企画、運営が継続されており、全国的にみても非常に貴重な存在となっている。 ・市の三大イベントは、それぞれ歴史、伝統、由来、目的に大きな違いがあることから、統廃合は難しい。									
		国県支出金	千円																			
		その他特定財源	千円																			
	一般財源	千円	5,832	5,832	5,832	7,692	7,692															
	事業費計（A）	千円	5,832	5,832	5,832	7,692	7,692	0														
	所要人員（年間）	人	0.100	0.100	0.100	0.100	0.100															
人件費	人件費概算（B）	千円	560	560	560	560	560	0	効率性評価	・事業効果向上 ・事業費削減 ・事務の効率化 ・費用対効果 ・財政負担の必要性 ・関係者との連携	事業費は、市の補助金と協賛金が主となっている。協賛金については、秋の陣まつり実行委員会を支える各協力団体の会員が市内外から協力をお願いしており、非常に厳しい状況にある。そのようなことから、市補助金の削減となると、協力団体との連携やまつりの運営に支障が生じるおそれがある。											
	(A) + (B)	千円	6,392	6,392	6,392	8,252	8,252	0														
(2)事業概要													達成度評価	・数値目標 ・目指す状況 ・実現性 ・情勢、環境の変化 ・事業期間	秋の陣まつり実行委員会を支える各協力団体は、昨今の人口減少の影響から、後継者が不足している状況にある。そのような中でも、松山地域を少しでも元気にしたいという若者たちの思いによって、来場者に楽しんでもらえる秋の陣まつりを無事に継続できていることから、「人づくり」に寄与しているものと考えている。							
事業目的	豊かで住みよい地域づくりを目指して、人づくり、イベントを柱とした市民総参加による地域活性化事業を推進し、松山地域を発信源とした産業の発展を図る。																					
事業内容	大隅の國やっちく松山藩秋の陣まつりの開催 実行委員会及びやっちく定例企画会議の開催																					
開始経緯	平成元年「松山の名前も場所も知らない県民が多い」「独自の発想で活動する場がない」等の意見からむらおこし若者会が発足し、自分たちの力で手づくりの祭りをしたいとの意見が出され、文治4年（1188年）に松山城を築城した平重頼の末孫である現代の若者たちが知恵と勇気を出し尽くし、松山町に新たな活力と富を呼び起こしていこうという設定で、大隅の國やっちく松山藩第1回「秋の陣まつり」を開催した。																					
実施状況	奉納武者行列をはじめ舞台発表、野菜やサムライ鍋の大盤振る舞い、手作りの子供広場運営、陣馬そり競争等を行った。											改革改善案	拡充		○	現状維持		改善		効率化		廃止終了
成果	毎月実施される定例会議において、来場者に楽しんでもらえるまつりの開催に向けてプログラムやイベント内容等について吟味し、まつり当日に臨んだ。結果、たくさんの来場者の笑顔あふれるまつりを行うことができた。												今後、大幅な組織の拡大は見込めない中で、これからも活動を継続するためには、良い意味で身の丈に合った活動内容を模索する必要がある。									
課題	協力団体の人員が思うように増えておらず、まつり運営にも苦慮するところがある。今後のまつりに対してどのような方向で進めていくのか、定例企画会議でも協議し方向性を見出す必要がある。																					